



そらうみテラス、新店舗人気 JR 青森駅東口ビル オープン



JR 青森駅東口ビルは 10 階建てで 1 ～ 3 階に&LOVINA、4 階に青森市民美術展示館と「じよもじよち」が入居し、3 階には青森港や駅前を見渡せる「そらうみテラス」(写真①)が設けられています。

初日には&LOVINA の 21 店舗中、20 店舗が開業しました。東北初出店となるフアッションブランド「GLOBAL WORK Smile Seed Store (グローバルワーク・スマイルシードストア)」、アウトドア用品の「好日山荘(こうじつさんそう)」、バッグ・革小物の「NAUGHTIAM(ノーテイアム)」、アクセサリーの「MUK MUSE BLANCHE(エム ユーケー ミュースブランシェ)」をはじめ、雑貨「スタンダードプロダクツ」など青森県初出店の店舗もあり、営業時間前から 1,000 人を上回る利用者が玄関前に長い列をつくりました。

そらうみテラスからは、これまでになかった構図から青函連絡船メモリアルシブツア甲田丸や青森ベイブリッジを見渡すことができ、多くの人が歓声を上げながら景観をスマートフォンに収めていました。

青森市民美術展示館では記念展として、市が所蔵する地元出身の版画家・関野準一郎の作品「奥の細道」などの展覧会が 6 月 29 日(土)まで開かれています。

「じよもじよち」は世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 17 構成資産(遺跡)のうち、青森県に所在する 8 構成資産の価値や魅力を伝える情報発信拠点施設です。

三内丸山遺跡 「恵みの海と縄文」展 多様な「食」と暮らしを紹介

三内丸山遺跡センター開設 5 周年の記念特別展第一部「恵みの海と縄文ー陸奥湾と三内丸山ー」が 6 月 23 日(日)まで同センターで開かれています。同遺跡をはじめ県内各地の縄文草創期～晩期の遺跡から出土した魚介類の遺物、漁労・調理に関する石器・骨角器・土器を通じて、多様な「食」と暮らしを紹介しています。

記念特別展は「陸奥湾をひもとく」、「海と生きるー三内丸山ー」、「恵みの海と縄文遺跡」の 3 部構成です。

入り口には、煮炊きに使ったとみられる、炭化物が煮こぼれの跡のように付着した縄文前期(約 5,900 ～ 5,800 年前)の円筒土器が展示されています。また、同時期のカニの爪やウニの殻、ウニの一種・ノスノハカシバが並び、縄文人が私たちと同様、海の幸に舌鼓を打っていた様子が想像できます。今では青森県を代表する海産物・ホタテの貝殻も、三内丸山遺跡ではありませんが出土していて、彼らの食生活に親近感がわきます(写真①)。

三内丸山遺跡だけでも 100 種類近くの魚介類が出土しているといい、最も多いブリ、2 番目に多いカレイ、さらにサメ、サバ、ニシンなど、実に多彩な魚介類が暮

来訪者を出迎えてくれたのは、「世界遺産ツリー」と命名された特徴的な展示スペースと、「遮光器型土偶」をアート風にデザインしたオブジェ、そして八戸市の「木のからくり作家、高橋みのるさんが制作した「からくり時計 縄文」です(写真②)。

実物の土器が展示されているほか、当時の縄文集落や縄文人の暮らし、現在の発掘風景までを表現したジオラ



「じよもじよち」縄文の情報発信

では、細部にもこだわった作りです(写真③)。

さらに、書籍や映像、出土品、レプリカを交えた展示を通じて、各遺跡の特徴と価値、アクセス方法を知ることができます。

JR 青森駅東口ビルは 7 月、4 階から 10 階に入るウエルネスホテル「Relabo(リラボ)」と、&LOVINA の残る 1 店舗がオープンして、全施設が完成します。



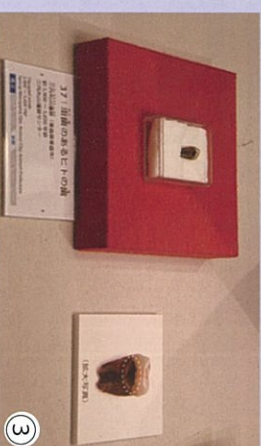
らしを支えていた様子が浮かび上がります(写真②)。注目されるのは、むつ市内田(1)遺跡でみつかったハヤグリの貝刃です。縁がナイフのように加工されているものの切れ味はあまりよくなく、魚のうろこを取るために使われたのでは…と考えられているそうです。

また、貝は食用以外にも、さまざまな装飾品に加工されたり、土器に文様を施すために使われたりしています。

このほか、三内丸山遺跡で出土した、むし歯になった縄文前期の人の歯(写真③)、各地でみつかった海水から塩をつくる「製塩土器」などが目を引きます。

観覧時間は、5 月 31 日(金)までが 9:00 ～ 17:00、6 月 1 日(土)～6 月 23 日(日)が 9:00 ～ 18:00 です。5 月 27 日(月)は休館日です。料金は一般 700 円、高校生・大学生 350 円、中学生以下は無料。

特別展の観覧料で遺跡を含む常設展も見ることができ



桜マラソン応援、勉強会で始動

青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」がゆく ㊟

青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」が新年度の活動を本格化させています。4月には地元の歴史を



学ぶ勉強会を2度にわたり開催、4月21日に青森市で開かれた「おおもり桜マラソン」ではボランティアスタッフとして、沿道で出場者に声援を送りました。

勉強会は顧問の清野耕司教諭が講師を務めました。講義の後、同校から約1km東にある、新青森駅近くの神明宮（石神神社）へ出向きました。境内では江戸時代の紀行家・菅江真澄が絵に残した石碑などを探すとともに、美しいソメイヨシノが咲くことを確かめました。

おおもり桜マラソンには、22人が2班に分かれて、自作の応援グッズを手に参加しました。「青西」と染め抜かれたえんじ色の法被に身を包んだ生徒たちは、春の訪れと、コロナ禍がすぎて活動が完全復活しつつある喜

びをかみしめながら、懸命に走るランナーを元気づけていました。

隊員の1人、川村陽莉さん（3年）



は、自らち10kmコースに出場した後、応援に回りました。走るうちに疲れて笑顔が消え、苦しい時間が続いたという川村さんは、仲間たちの声のおかげで走り切れたといい、「応援された側も応援した側もうれしい気持ちになる。応援は人と人をつなぎ元気になるとても良いものだと思いました」と振り返っていました。

地域「肥やす」活動、3年の集大成

青森県立美術館

展示会「美術館堆肥化宣言」

青森県立美術館が、県内各地の文化・歴史を耕す活動に携わる人々「堆肥者」とともに展開してきたプロジェクトを紹介する展示会「美術館堆肥化宣言」が6月23日（日）まで、同美術館で開かれています。

同美術館は2021年度から2023年度まで、プロジェクト「美術館堆肥化計画」を展開し、美術館が地域を多様な形で肥やす「堆肥」となる道を探ってきました。「堆肥化宣言」はその集大成と位置づけられます。

展示は、幕末から明治に活躍した絵師・考古学者の蓑虫山人の紹介から始まります。そして、彼が青森県内で縄文土器を収集して図画に描き、地元の人々に託



した取り組みに基づき、彼を最初の「堆肥者」として紹介しています（写真①）。

続いて、佐井村の長福寺で放参日（お寺で遊べる日）に「ミニ四駆」大会を開いてきた団体「テラヨンカーズ」のコース、故郷・中泊町の日常と農作業を撮り続けている外崎令子さんの30年余りにわたる作品群（写真②）、五所川原市の社会福祉法人あーるどが開催した、障がいを持つ人たちの作品展「ありのままの表現展」出品作などが展示され、地域に根ざして暮らす営みとアートとの接点にさまざまな問いを投げかけてきます。

加えて、木村伊兵衛賞を受賞した写真家・田附勝が六ヶ所村の人々の食卓を撮影した作品、縫いものの集団「イタズラ・ヌースン」がむつ市で実施した手芸ワークショップ会場のにぎわいを追体験するような展示（写真③）など、県外の作家・アーティストと協働した足跡も注目されます。

企画を担当した学芸員・奥脇嵩大さんは「美術館が地域とつながり、果たせる役割のさまざまな可能性を感じ取っていただければ」と話しています。最終日の6月23日（日）11～12時には、奥脇さんによる展示解説が行われます。

観覧料は一般900円、高大生500円、小中学生100円です（9月29日・日曜日まで料金変更中。詳しくは青森県立美術館へ）。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（GWと6月1日～9月30日は18:00）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問い合わせください）

〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimanuyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
※企画展開催時、展示替えにより変更する場合があります。

観覧料 一般900円（700円）／高校・大学生500円（400円）／小学生・中学生100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金およびAOMORI GOKKAN アートフェス 2024 公式ガイドブック特典「スタンプラリー」＆バスポート提示割引料金
※企画展は別料金。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問い合わせください）

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ➡ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
➡ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウソト

＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウソトを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ Instagram



青森大学 社会連携 センター